

## 今日の説教のポイント <マタイによる福音書9章27～34節>

イエス様の奇跡を告げる二つの短い話。でもメッセージは明確！

### ①癒しの奇跡を経験したら信じる？ その逆を語る一つ目の話。

聖書にはイエス様の奇跡の話がたくさん出て来る、それを見た人たちが主を信じる話も。そう思いがちですが、少し違います。そのことをよく示すのが今日の個所の最初の話です。歩いておられた主イエスに二人の盲人は迫ります、「ダビデの子よ、わたしたちを憐れんで下さい」と。しかし主は相手にされません。それでも彼らが諦めず家の中までついて来たので主は問われたのです、「私にできると信じるのか」と。彼らが「はい、主よ」と答えたので、そこで初めて癒されたのです。「あなたがたの信じているとおりになるように」とは、「あなたがたの信じる度合いに応じて」という意味です。

イエス様の奇跡を見て信じた人は大勢いたでしょう。しかし、その人たちが皆、主への信仰を貫いたかどうかは分かりません。大事なことは、見たから信じる、ではありません。信じるのが癒しの奇跡より前にあるのです。「マタイは信仰が癒しに先行し、またそれは積極的で辛抱強い信仰でなければならぬことをはっきりさせる」、マタイ福音書のある注解者のこの個所についての的確な指摘です。

### ②信じる人、信じない人、どちらもいることを語る二つ目の話。

「大概の人が信じないのに、自分だけ信じるなんて」、現代人である私たちが信仰に向かう時にまず考えることです。見たから信じるどころか、見ても信じない、人間の理性で理解できないものはないはずと考えるのが我々現代人です。しかし、幸いにも、行き詰った時に、今まで見えなかったもの、聞こえなかったことが、見え、聞こえ、その喜びを語らずにはおれなくなるのです。今日の個所の二人の盲人と悪霊に取りつかれて口の聞けなかった人も同じです（31、33a）。

驚いた群衆はまだイエス様を信じたわけではありません（33b）。しかし、驚くことは信じるようになる前の大事な状態です。信仰に向かって開かれ出した人たちです。この時信じようとしない人も、それで閉じられたわけではありません。神様は、全ての人が信仰に向かって心の目が開かれるのを待っておられるのです（Ⅱペトロ3章3節）。